



陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和33年5月号 から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

酒道談義

岡島藤人

(昭和三十三年当時)
本部准員・養徳社社長



酒の功德

私は若いころ、禁酒論を唱えたこともありました。酒は亡国の元だとさえ思ったことがあります。

その後、酒の効能を知るに及び、逆に左党礼賛を唱え、盛んにお酒の功德を讃美したこともありました。私の古い著書を見て当時のことを思い出すのです。

しかし、若いころとて情熱もあつたし、一見よろめきのように思われるかも知れませんが、私にはいずれも本気であつたことは事実です。

本当に酒の害毒をうらんだことがありました。酒が日本の国からなくなったら、どれほど日本はよくなるだろうかと、などと真剣に考えたこともあ

りました。酒を飲む人を見ると罪人のように思えたり、悪人のように思えたり、腹立ちさえ感ずるのでした。

ところが、その後いろいろの人に会い、自分の視野も広まるにつれて、自分の禁酒論のあまりにも一方的であり、偏見であつたことに気づき、ついには反動的に酒を讃美するに至りました。

もしこの世の中に酒がなかったら、どんなに味気ない人生になるであろう。酒こそは人生のうるおいだとさえ思うに至つたのであります。

むずかしい判定

といつて、私は今もお酒はいただきませんが、それは禁酒ではなくて、体質的に飲めないのです、ただただかかないので

す。時折何かの会合で盃に二、三杯いただくことがあります。が、すっかりいい気持ちになつて、飲める人の一升もいたただいたくらいに廻るのです。したがって私は、酒は飲まないのではなくて飲めないのです。飲まないのと、飲めないのとは似て非なるもので、私は前者に非ずして後者なのです。

さて、果たして酒はいいのか、悪いのか、酒の功德、功罪は、いずれでありましょう。昔も今も、この問題になる

どちらに軍配を挙げるべきか、この判定と裁判ほどむずかしいものがあります。このむずかしい問題にもか

かわらず、この問題について は案外人は簡単に判り切つて いるように思うのです。

酒の功德を知る人は、一も二もなく礼賛するのです。反対に、酒の害を知っている人からすれば、頭から反対を唱えたくなるのです。

酒を飲む修養

しかし、一歩退いて静かに考えますと、酒だけではなく、この世に存するあらゆるもの

がそのようなのではないでしょう。か。

お金の如きもそうであつて、金ほど大切なものはありませんが、お金さえあればいいかというところ、そうはゆかぬので、お金のために人生をあやまるのが決して少なくはありません。お金ほど尊く、お金ほどおそろしいものはありません。

要するに、一切は人間の問題ではないでしょうか。

人間の修養さえ出来たら、一切が人生に役立ち、尊いものになり、有難いものになるのですが、人間が出来なかつたら、如何なるものも害になり、役立つどころか、かえつて己を誤らしめ、人をきずつけ、社会を害することになるのです。

それを思うと、酒の功罪を論ずるよりも、酒に対する人間の修養が大切なのです。飲まぬ修養をする必要もあるでしょう。飲む修養をすることも大切でしょう。

個人的なことにわたつて恐縮ですが、私の父は八十八歳で出直しましたが、私が想像して、父は永い生涯を通じて一合くらいの酒より飲んで

いなかっただのではないかと思
うのです。はつきりしたこと
は判りませんが、当たらずと
いえども遠からずで、私の計
算に大したくるいはないと思
っております。何が苦手かと
いつても、酒ほどの苦手はな
かったのでしょうか。

その父も私に折に触れ時に
触れて、酒を飲むことを勉強
せよ、と言いつ聞かせたこと
があります。今になって父の心
中が判るような気がいたしま
す。

酒を飲む修養をすることも
大切だと思ひますが、同時に
酒を飲まぬ修養をすることも
大切だと思ひます。

この世の中にあるすべての
ものは、それを生かし、それ
を役立て、換言すれば、それ
によって己も人も真の陽氣ぐ
らしの糧にすることにあり
て、それと、それをきつづけ
るような用い方や使い方は慎
むべきだと思ひます。

最後は人間の問題

世にはお金を貯めることは
知つてゐるが、使うことを知
らぬ人もあります。反対に、
お金の大切なことを知らず、
いたずらに使うことのみを暮

らしている人もないとはい
えませんが、どちらも困つたこ
とで、金を貯める修養、金を使
う修養、いずれも大切だと思
ひます。更につきつめて申す
ならば、人間として立派にな
ることが先ず何より大切だ
といふことになると思ひます。

酒で問題を惹起する人も、
金で問題を惹起する人も、酒
ではなく、金ではなく、人間
が出来てゐるか、出来ていな
いかに起因すると思ひます。
かく考へてくると、政治も
教育も事業も宗教も、すべて
は人間を完成することが一切
の先決の問題であつて、根本
の問題だとしみじみ思ひます。

この第一義の問題、この根
本的な問題を忘れて、第二義、
第三義、あるいは末義の問題
にとらわれてゐるようなこと
が多いのではないかと思ひ
ます。

何がいいのか、悪いのか、
そんなことが問題ではなく、
人間が出来てゐるか否かとい
ふことによつて、全てが決ま
るべきだと思ひます。

本末を忘れ、本末を転倒し
ては一切の努力も無意味に終
わると思ひます。

養徳社の一押し書籍

【改訂増補】篠田欣吾著
**こころの
さんぽ道**
¥1,296円(税込)

22年ぶりの大幅加筆！
信仰するということは、教を頭で理解すればいいということではありません。日々の生活を教へのつとめて律すること、それを具体的な生活の場面を通して提示したのが本書です。

心に喜びがわき、
幸せの輪が広がってくる。
この世に生きる歓喜と
素晴らしさを呼びさます。

目への悩みや不足不満が消えれば
幸せを呼ぶ言葉
榮嶋憲和著
¥756円(税込)

「天の理」を解きほぐす
中臺勤治著
¥1,404円(税込)

人間のたすかる原理
道の教理を「誠一つが天の理」「二一つが天の理」「順序一つが天の理」「成ってくるのが天の理」の四つのワケ組みに整理することで「たすけ」のメカニズムが鮮明になってくる。

マンガ
おびや許し
作画：金巻しよじ

目下制作中

八月発刊に向けて
がんばってます

図書出版 養徳社 フルカラー 予価：200円

『陽気』定期購読

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。(例：8月号は7月20日) まずはお問い合わせください。定期購読料金 1年分…3,420円(送料込)

購読に関する問合せ先 ☎ 0120-920-398 養徳社 業務部窓口



Facebook で最新情報をチェック！ <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
＜書籍・陽気のご購入方法について＞前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部